

災害時の取組について



堀口 きく枝 議員



質問 災害ケースマネジメントについて伺います。

では住宅被害の場合、建物は支援されるが、人に支援が行き届きません。状況に応じた生活再建を支援するため、災害ケースマネジメントの導入を要望します。

答弁 申請に基づき当該支援を提供する従来の手法だけでなく、実際に訪問等を行うことで状況を把握し、民間と連携し被災者の自立や生活再建を支援する手法が実施されてきています。

質問 ペットの同行避難について伺います。

答弁 避難所におけるペットとの同行避難の基準を定

要望 今の被災者支援制度

め、ほかの避難者とのトラブル回避を目的に一定の制限を設けました。各避難所へお越しの際に届出をいただく、設けられた指定のペット飼育エリアでの保管や餌やり、清掃なども飼い主の方が責任を持って行うことを規定しています。

質問 小・中学校の体育館避難所における夏場の施設環境について伺います。

答弁 避難所となる小・中学校16校の体育館は、現状、空調設備が未整備であるた

について伺います。

答弁 市内11小学校区のうち、5つの学校区子ども会育成会が休止しています。

質問 市子ども会育成団体連絡協議会の役割と活動内容について伺います。

答弁 育成団体相互の連絡協調を図るとともに、子ども会の向上発展に資することとされています。

質問 会長をトップとした役員体制の弊害について伺います。

答弁 学校区子ども会育成

や要配慮者用バンダナがあります。市としての考えを伺います。

答弁 避難所において支援が必要であることを周囲に伝える手段として有効と考えます。

要望 災害時ヘルプバンダナの導入を要望します。



館に地域学校協働本部が整備され、地域と学校が連携、協働して地域学校協働活動を推進しているという状況です。

要望 多くの地域住民に理解者、協力者を募り、地域住民や団体が参画できる体制を整える役割を担うのが地域学校協働本部です。しかしながら、本市では、まだ新しい取組ですので、事業評価を導入し、課題を洗い出していきたいと思

質問 現在の小学校の児童数と子ども会に加入している児童の割合について伺います。

答弁 令和5年4月現在の市内小学校の児童数は3338人となっており、うち子ども会に加入している児童数は1535人であるため、その割合は46・0%



飯島 一志 議員



子ども会育成会などの地域組織の現状とこれからのあり方について

なります。

質問 子ども会育成会の総数と休止している割合について伺います。

答弁 70団体あり、うち41

質問 現在休止している学校区子ども会育成団体の数

め、夏場の開設においては熱中症事故のリスクが高まることが懸念されます。

要望 今後、温暖化による気温上昇も懸念されます。学校行事や部活動にも有効な小・中学校体育館のエアコン整備を要望します。

質問 災害時の障がい者支援について、避難所等で見からは支援が必要であることが分らない方や意思表示が難しい方が一目で分かる、適切な支援が受けられる災害時ヘルプバンダナ

会役を果たすに当たり、適した人材に代表となつていただいていますので、会長をトップとする体制にはありません。

質問 事業を実施することが目的の組織から脱却する考えがあるのか伺います。

答弁 市子育連の事業内容や頻度についての検討が必要と考えています。

質問 ライトコミュニティの普及に取り組む考えがあるのか伺います。

答弁 現在、3地区の公民